

会 議 報 告 書

件 名	令和8年度第1回八潮市学校教育審議会		
日 時	令和8年7月23日(木) 14:30～16:30	場 所	八潮市役所4階 会議室4-2
出席者	八潮市学校教育審議会委員名簿のとおり (欠席:雲井委員、近委員) 【教育委員会事務局】 井上教育長、千葉部長、猪原理事、山内副部長、松本課長、山口課長 山田主任指導主事、関根係長、伊藤係長、高橋技師、石橋主事		
1 開会 2 委嘱書交付 3 教育長挨拶 4 委員自己紹介 5 事務局自己紹介 6 会長・副会長の選出 会長に須永委員、副会長に山本委員が選出された。 7 諮問 井上教育長より須永会長へ諮問書が手交された。 8 議事 (1) 学校プール施設と水泳授業の現状と課題(資料1) (2) 学校外のプール施設の活用(資料1) (3) 他自治体の取り組み(資料1) (4) 今後のスケジュール(資料2) 《質疑応答》 (1) 学校プール施設と水泳授業の現状と課題について 【事務局】 ・資料1に基づき第1章説明 (委員) 外がどういう状況だと熱中症警戒アラートの放送をかけるのか教えてください。 (会長) 校長先生方、学校現場で放送をかけるタイミング等で配慮していることがあれば教えていただけますでしょうか。 (委員)			

本校では、校庭に WBGT 測定器を設置しており、8 時から 14 時まで 2 時間置きに数値を確認しています。その際、数値が 31 を超えた場合は、プールの授業を中止にしています。本校の場合は、必要に応じて放送をかけていますが、児童や先生方が見える場所に赤旗を出して、外遊び等はできないということを知らせています。

(委員)

本校でも同様の対応をしていますが、加えて気象庁からも熱中症警戒アラートが出るので、それが出た場合には、校庭等での遊びを禁止しています。

(委員)

WBGT 測定器とはどのような機械ですか。

(委員)

WBGT 測定器は気温や湿度を測る機械です。各学校の校庭や体育館などに設置されています。

(会長)

WBGT測定器が重要なのは、気温だけではなく湿度も測れるところです。湿度が高いと汗が蒸発せず、体温が下がらないため、WBGT測定器で測ったときに 31 度だと危険という表示が出て、運動をやめてくださいというアラームが鳴ったりもします。

(委員)

資料1、6ページの維持管理費について、図表2と図表3の令和3年から令和7年までの5年間の金額に誤差があるのはなぜでしょうか。

(事務局)

資料に誤りがありましたので、修正いたします。

(委員)

資料1の 11 ページ、各学校でプールの授業が中止になった回数について、WBGTの数値が中止の基準になっているのでしょうか。いつ中止の判断をしているのでしょうか。

(委員)

基本的にはWBGTの数値で判断しています。本校では 8 時、10 時、12 時、14 時に数値を確認し、判断しています。

(委員)

同じ市内でもプールの授業が中止になった回数に差があるのはどうしてですか。

(委員)

プールの開始時期は学校によって異なりますので、開始時期の差であると考えられます。

(会長)

プールの授業数の差が子どもたちの泳力に影響してくるのであれば、非常に問題であると思います。しかし、中止の判断が決して主観的なものではなく、WBGTという客観的な数値に基づいて判断されているということで仕方がないと思います。一方で八幡小学校は室内プールを利用し、授業が計画どおりに実施できたということで、他校と明確に差が出たと感じました。

(委員)

プール授業中止の指標として、WBGTを使用しているとのことですが、昔は気温と水温の合計でした。校庭での外遊び禁止とプールの授業中止の判断は同一で考えてよろしいでしょうか。暑ければプールに入っていればいいのではないのでしょうか。

(委員)

以前は寒くて入れないということが多く、その際には気温と水温の合計を判断基準にしており、暑くて入れないということはありませんでした。寒いときの判断基準は気温水温の合計、暑いときの判断基準がWBGT測定器での数値であると捉えています。この数値が31を超えたときには、校庭での外遊びも禁止にしています。

(委員)

最近水温も30度を超えて32度になっているときもあります。そうするとプールに入っても体温が下がらないので、WBGT値を基準にして判断しています。

(委員)

おざわスイミングスクールでは水温30度、室温は33度くらいです。屋外と屋内では温度の感覚も違うと思います。外のプールで指導する機会がありましたが、やはり暑かったです。外でやるのは子どもたちが可哀想だなという印象です。

(2) 学校外のプール施設の活用について

【事務局】

・資料1に基づき第2章説明

(委員)

八幡小学校のプール授業の見学におざわスイミングスクールへ行きました。暑い日も雨の日も授業ができていることが良かったです。また、見学の児童にも指導が行き届いていました。また、インストラクターの方がとても優しい指導をしていて、水があまり得意ではない児童がプールから出てきたときの顔を見たら、何か成し遂げたような達成感の顔をしていて、素晴らしいと思いました。この暑さなので、市内の子どもたち全員がこういう環境で授業ができたら、どんどん泳げるようになるのではないのでしょうか。

(委員)

資料のアンケート結果にあるnは何を意味しているのでしょうか。

(事務局)

アンケートの回答の母数(総数)でございます。

(委員)

資料1、19ページの八幡小学校のタイムスケジュールを見ると、1日2単位で、4日行くことで8単位とれるということでしょうか。

(委員)

1回の授業で2単位分の実施となっています。子どもたちの着替えが早く終われば授業時間は70分とすることもできています。1回の授業で2単位分ですので、休憩を入れながら時間調整をしています。授業の内容としては、A・B・C の3グループに分けて行っています。今の6年生が4年生のときに始めて、平泳ぎまでは難しいですが、最初泳げなかった子がクロールではだいぶ泳げるようになっていきます。コロナが流行していた時期、なかなか水に入る機会が少なかった子どもたちですので、6年生でも全く潜れなかったり、泳げないまま卒業してしまった子もありますが、今年度は3年目に入りましたので、だいぶ良くなっていると思います。

評価については、最後の授業の日に担任の先生が指導要領に基づいて泳力判定をしています。

(会長)

八幡小学校のアンケート結果からわかるように、とても良いことばかりで、市内全小中学校が行けたらいいですね。

(委員)

どのくらいの頻度で行っていますか。

(委員)

おざわスイミングスクールでは幼稚園の授業も行っていますので、間が空いてしまうような状況です。

2週間に1回くらいの頻度で授業をしています。前期3学年、後期3学年に分けています。

A・B・C の3グループに分けているので、1回に1学年が来ています。特別支援学級は学級数が少ない学年と一緒に行いました。

(委員)

今後の話になりますが、例えば大瀬小学校は5クラスあるわけですが、そうすると1回で1学年全員は行けないという課題が出てきますね。

(委員)

維持管理するより委託した方が安いのでしょうか。

（事務局）

資料1、7ページの維持管理費は14校での平均、委託費については八幡小学校のみとなります。

維持管理費と委託費のみを比較するのではなく、老朽化したプールを新しく建て替えて維持管理をした方が安いのか、委託をした方が安いのかという点でも比較できるかと思います。

（委員）

先ほど見学の児童について話がありましたが、本校は1学年3クラスで、現在1学年を2グループに分けて指導をしています。1人がプールサイドで監視をしています。見学の児童は暑くてプールサイドにいられないので、校舎内で待機しています。そうすると、養護教諭や管理職など空いている教員が対応している状況です。八幡小学校の話を聞き、インストラクターが3名、教員が3名いれば指導、監視、見学者対応もできるので、非常に羨ましいです。

（委員）

学校の先生で実際に入水したのは特別支援学級の先生のみです。指導は全てインストラクターが行い、学校の先生はプールサイドから注意喚起などのサポートをしていただきました。

（委員）

校長の立場からすると安全管理の面で、小学生はどういう状況になるかわからないということもありますので、監視の目が多いということは理想的で、非常にありがたいです。

（会長）

資料1の21ページを見ると、最大で5名の先生が学校を離れることになりますが、この点に関して、学校運営や業務に支障はないのでしょうか。八幡小学校のアンケート結果をみると、そういったことはなかったのかなと読み取れますが、いかがでしょうか。

（委員）

本校は単学級で教員数が少ないので、管理職が行かないと対応できないと感じます。

（委員）

本校は学級担任のみであれば問題ないと思います。

（委員）

八幡小学校では学級担任プラス教務主任の先生や教頭先生が来ています。

（事務局）

八幡小学校からおざわスイミングスクールへ行くときに、学級担任プラスアルファ教員が行くことに関して困るといった声は聞いていません。学年の児童の状況によって、管理者や各学級の副担任にあたる

教員が対応しています。

(会長)

資料1の24ページ児童Q4-2 の意欲が向上しなかった理由について、その他の割合が多いところが気になります。自由意見があれば教えていただきたいです。

(事務局)

学校のプールとやる気は変わらない、泳ぐことが苦手というような意見がありました。

(副会長)

小学校の話が結構出ましたが、中学校からしても、この委託の話を聞いたときに、保健体育科の教員が羨ましいと言っていました。管理職の立場からすると、プールの授業が始まると安全面に特段の配慮をしています。八幡小学校のような取り組みは安全で監視の目が複数あり、とてもありがたいですし、普段は機械の管理や水質の管理に時間をとられています。学校によってはプールの周りに木が多かったりして、朝から枝葉などのゴミ清掃に1時間くらいかかることもあります。そういった点も含め、この取り組みはありがたいと思います。

(3) 他自治体の取り組みについて

【事務局】

・資料1に基づき第3章説明

(委員)

小学生の時にあまり泳げなかった児童が、中学生になり急に泳げるようになったということは、先生方、長い間見ていていかがでしょうか。中学校のプール授業を廃止しても影響はないでしょうか。

小学校で少し泳げたり、水が怖くない程度になっていれば、中学校で廃止しても良いのではないかと感じます。

(会長)

私も同じことを思いました。1年生から6年生までの発育発達段階で少しずつできることが増えて、最終的に6年生になったときに、ある程度水の中で浮くことができたり、進んだりすることができる能力を身につけておけば中学校では廃止してもいいのかと思いますが、先生方いかがでしょうか。

(事務局)

中学生から泳げるようになるということは難しいと思っています。6年生までに泳法の基本的な部分が身についていないと非常に難しいです。夏休みなどに泳げない子を集めて、個別に相当時間をかけて指導していかないと厳しいと思います。

(副会長)

昔は泳げない生徒を集めて補習の水泳教室を行っていましたが、今は行っておりません。また、中学生になると、水が嫌だ、水着になるのが嫌だという生徒が出てくる時期でもあります。

(会長)

中学校の水泳授業に関しては、議論する上で重要なポイントだと思います。市内小中学校15校がおざわスイミングスクールに行けたらという話が出ましたが、制限がある中でどう人数を調整していくのが今後の議論の中心になっていくのではと思います。

(4) 今後のスケジュールについて

【事務局】

・資料2に基づき説明

→質問、意見なし

9 その他

次回の開催予定について、事務局から連絡した。

副会長総括

10 閉会